

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

3/Color Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

通者古知流者水
参

1222
3





通老集話太平世之三

亡父の遠忌に羊外を織る話

光り直るに遊下院屋にて亡者の求むる積
利おほくと竹谷素影房のりさき人の心
おぬきまじど追福のめ。法絶財絶をいさかむ
いささかむべし。集話太平世と記す。思ふ
ハ春秋二友の彼岸を。徳家おしなへる。葉の
ふと唱へ。或を餅饅頭。菓子。昆布。干菜。子やう
のそのを織りて志すと。是あを即座の葉にほこ

かつて、ひん 日ひの故こ人じんをもおめいい出でいまを
 かつり、しん 射やの射やをどして、く 供く養やうとも、つ 追お追おとも
 かつぬべし、い 然しかるくよせるら葉の子こと、し 留りへ織るを
こままば、こ葛こ根げ草くさ豆ま腐ふ油あぶら揚あ大た根ね草くさくし等らの
あ物もの乾か物もの煎せん是こをか飯いのこ子こならうべし、ち 葉の子こと
 つつここそおううりき、しましとこをち智ちを揮ひて施せ
らもより葉の子織つ、しこしへる人もより葉の子
しやと枝えがとこまままば、わ 硫りゅう黄わうの付本ほんほくらたう
しんせんううう葉はいう火ひ吹ふ行ぎやうたごのせ帯おびたご

かつ、かつそのも葉ごぬならうハいつなるお葉
 人の葉ごほよりるいとおうハいつなるお葉
こハ、そのなの監觴さうを志れを揚あうりめとこれ
のまれあごと獨凝じやう滞たいる益ならんせと押らうらご
よううべし、こここわん亡じ又また三さん十じゆ三さん回かいといふ
いづれやこももおうり葉の子せんとて、一家け親
近所しよ儀ぎあごの知まる羊やう行ぎやうよ羊揚やうと織る
織らまらう、羊の先こら羊の先の先の先の先の先の
やううよううううう、大強ちやうをおくありらうう、いづれ

通 卷三

二



継家
市丸



茶の子
集千の

人の
手
さ
や
さ
み
お
く
と

うきまゝに二布^{ゆいで}のうづ^まかや^らわ^らん^なま^りの
 座^ざを^をめ^れし^やら^しす^もて^きか^とき^うら^らし^めば
 も^ちり^のま^じつ^にあ^らじ^うあ^らじ^のま^じつ^のま^じつ^のま^じつ^の
 座^ざも^も何^{なに}と^もや^らず^の春^{はる}の^まじ^つ
 の^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つ
 も^もま^じつ^のあ^らじ^のあ^らじ^のあ^らじ^のあ^らじ^の
 座^ざも^も何^{なに}と^もや^らず^の春^{はる}の^まじ^つ
 の^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つ
 も^もま^じつ^のあ^らじ^のあ^らじ^のあ^らじ^のあ^らじ^の
 座^ざも^も何^{なに}と^もや^らず^の春^{はる}の^まじ^つ
 の^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つの^まじ^つ

鉄格子評日け竿竹ヲ茶ノ子トスル謂アリ
 量^{ハカレ}ニ茶詰太郎カ七父ノ忌日四月八日ナレベ
 之^ニ此日^{シマカ}親^{カタコ}如^{カタシ}御^{シマカ}誕^{シマカ}生^{シマカ}ナリ佛ハ則^{スナハチ}天上^{スナハチ}天下^{スナハチ}唯^{ユク}
 我^ガ獨^{ドク}尊^{ソン}トテ三千^{ミチノ}世^セ衆^{シュウ}ノ操^{ソウ}師^シノ親^{シン}玉^{タマ}ナリ自^{ミカラ}
 天^{アメ}ヲ指^{サシ}テテニカラカラト宣^{ノシメ}ハ忽^{タチマチ}切^チ利^リ天^{アメ}ヲ
 鈎^{カケ}ヤゲ玉^{タマ}ヲ又^{マタ}地^チヲ指^{サシ}テテニカラカラト宣^{ノシメ}
 へハ金^{コネ}輪^{リン}隠^{カク}ヲ鈎^{カケ}アゲ玉^{タマ}ヲ此時^{ナキトキ}甘^{アミ}茶^チ竿^サ竹^{タク}大^{ダイ}
 役^{ヤク}アリ茶^チハ産^{ウチ}湯^ユノ役^{ヤク}ヲナス此^{ココ}竿^サ竹^{タク}則^{ナラバ}卷^{マク}ヲ
 擇^{タク}ル役^{ヤク}ナリ依^{ヨリ}テ竹^{タケ}ニ茶^チヲ加^カフ時^{トキ}ハ竹^{タケ}茶^チナ

リ故ニ今モ傳テ竹茶が大ガラクリトイフ
由縁ナキニ之モアラズ

酒を絶りして乞食を爲る後

人小物を施を乞ふの切法をも。目眩肥身肉
多食不措軀命とききのつど。金銀相換妻子女
宝珠も亦なく絶り仕る。娼者仙人が逐削
又遇ふと様ふ。盤一筋身はす。藝のらき世は
拂ひ控るを佛も教毒痛躰しのみふらや不冷け
そらかり家位後の母こそ大福也。老の若具也

と生れ。お誓なんちう、譲うけると。又子とて
とよぬまきと絶せば。せん縁生の世を信まうの
長老とならう。又百生を強る時。その世の切法
よらう。終西方極楽浄土。弥陀のた座なる。親
世も大菩薩と生れ。身も金毛の光を放ら。ふの
清も。百味の飲食を又十人前。一は小探
る。ぞう喰う。舌教をお。脾胃虚か。あをむ。この
と。と。それと。仏と。飲酒戒を拵らう。百味の飲食
と酒を除く。ぬく。ばと。戸は。け。む。い。う。ざるも

のふやと。折く酒後の戯る。茶後太師咄し。かこ
きりり。いとおう。に。虚言なう。あると。きき。例
よう。は。う。雲。を。年。を。あ。う。り。せ。ど。も。核。の。飛
人。世。和。の。念。極。空。ふ。た。く。の。苦。を。ら。き。バ。あ。く
よう。粥。や。ら。の。絶。れ。を。た。う。う。あ。ら。れ。も。彼
等。が。空。氣。を。凌。ぶ。ハ。鳩。ご。う。ら。う。け。対。茶。後。太。師
思。ふ。う。と。を。次。年。中。續。と。法。様。を。念。ま。う。も
お。お。二。三。四。の。役。ハ。あ。き。ご。も。こ。の。の。空。氣
を。た。う。う。ど。重。と。ぶ。う。の。か。の。の。ま。ら。く。極。な。ら

目。焚。火。よ。う。う。の。破。や。破。ま。地。を。世。を。と。と。死。人
の。身。ハ。る。連。大。の。連。の。八。雲。地。獄。も。思。ふ。べ。い
か。る。歌。の。時。節。ハ。飯。よう。粥。よう。解。け。の
一。糸。も。絶。と。バ。壺。音。根。ふ。な。う。と。肉。骨。相。の
の。に。心。刺。し。一。絶。子。を。修。け。ら。ま。だ。と。や。也。身。者
愛。を。信。し。忽。ち。手。を。お。ま。き。百。葉。の。木。か。ら。り
を。身。よ。ま。く。ふ。思。ひ。付。け。絶。り。海。こ。そ。空。氣。は
凌。べ。し。古。き。や。ら。う。粥。や。ら。う。物。入。ハ。強。か。ら。う。ぞ
け。ま。よ。酒。や。ら。う。切。徳。を。勿。倫。と。と。か。ん。者

新へ志つておううう。亦一音の亦二たの
こ。新ま飲人や奪まよ戸。いりうくの老を奪ま
いんう。酒人よ一向よの悪く思ひ立日は是吉
日。味ひさのハ香よのまや。いりさげとや支交
せりて。出入の老よも収集の俄まをくろむ酒
やら支交。新酒のまよば切通る為ら。鬼ころり
てハ名がおしりて。酒も自利するも。よのせん二
艘と綱船二まを過す傳け。日本橋の上のま
の川中と船懸は酒やろくと。酒まきま。テモ

酒くしん酒ゆいと。乃た城の支働よう右徳
左徳よ走出ると。乃た悉皆能我鬼まの洞窟能健
ハたろまきども。五派法常酒うまの。乃た利かまハ
を飲酒よと。大又字よ年記し行の先よくくま
けけ室丸よお魔うせ。新を必くまする。同門と。新
あを教まの薦かがう積うさね。新くしん酒人
酒よなんくと。酒を酒へ鉄炮をよ出度ふをい
ろくせ。酒人と綱の飲加減を志す老を先陣
と。おらうよ船合を能人とも。字ようあくよう



たう。かくる時帯よりハどんぱいつろ焼石う
 ろもさん。てん子に級権う。おし。まへも
 一。い。ら。ら。も。い。へ。お。う。た。右。ハ。な。う。め
 燈。さ。さ。ハ。方。馬。が。な。い。後。一。馬。の。こ。次。子。と。
 早。長。所。へ。も。望。へ。ら。ま。さ。ば。乞。合。能。人。ハ。い。も。と。ご
 一。取。泊。の。津。や。持。ま。日。馬。の。小。揚。も。ら。振。袖。さ。う。類
 嫁。婆。と。或。を。橋。ま。け。儀。尺。あ。く。ゆ。飲。助。た。ん。む。の
 神。系。も。く。と。や。傳。く。乃。如。燈。の。支。例。と。系。お。く
 き。と。先。よ。ま。船。を。目。南。の。押。あ。く。あ。ふ。飲。こ。い

底。い。ま。い。通。紅。ハ。只。二。艘。う。予。回。又。ま。い。も。刊
 色。ハ。な。い。う。や。飲。ま。い。と。お。め。く。も。糖。石。を
 ぞ。も。塩。忍。り。ぬ。と。咽。を。鳴。う。て。延。あ。が。う。事。う
 き。進。し。と。待。う。の。う。ま。も。い。ら。ら。ど。川。あ。よ。ご
 つ。と。飛。こん。ご。を。船。う。な。付。や。う。困。な。り。者
 ハ。た。ま。う。の。系。一。よ。か。し。ま。う。船。を。鳴。とも。て
 ぶ。ま。う。ど。系。佐。太。爺。大。い。ま。ま。を。い。ら。船。の。福
 先。く。よ。ま。あ。が。う。大。考。う。下。か。し。回。朝。ふ。南。お。よ
 ろ。い。づ。う。ま。さ。て。ハ。ら。ら。の。自。勢。ふ。ら。ら。が。あ。る

通記を二もよりけ。飲ぶるやうに南へ廻り大庄
 の濱へ入るの旨。酔ふとこころを捨て捨おとす。お
 の岸へ揚ぐやき揮くこと知つて。柄杖をと
 らで蛇連中の酒風呂へ入る。矢意を注ぎ込ませ
 ぬが流るる長居とま。いづれも酔ふ酔ふと
 どろろけくのま。すづくと。只一人の扱ひ。ひ
 りものぶまを飲ぶ。是や弘誓の如後得解
 テモまごころ且那さまけうもたつ。清き根
 ほんごの佛さまと。酔ふる飲すけ。當り合せ。

ろんを絶りが唐もあろうけ。大勢が魚を築
 ば。肉も煮る。糟真からと。追従いあや。酒
 や。若代末字の大絶り。海陽の江へい。ま
 ど。乃。絶り。名をほ。る。い。ま。清。を。合。を。結。く。
 て。吉。絶。丸。の。源。花。名。代。の。揮。く。め。め。ぐ。く。群
 あ。つ。ま。う。く。飲。を。ま。酒。ハ。元。量。な。ら。ま。き。も。乳
 及。び。氣。も。も。く。ど。か。る。清。様。を。煮。も。も
 ぶ。魚。醉。り。ぬ。も。絶。り。の。切。刀。た。ま。ぐ。く。ま。子。の。肉
 後。よ。か。ま。い。天。を。帯。く。地。を。巻。く。舞。ら

沈の飲むふ劉伯倫もこもわづらめんつ持さ
 る白樂天陶淵明ハもごう祚子知章ハ弓うけ
 鼻うけ親仁左相ガ万涉き又奴子ヨボ一播ハ
 汝陽ふ似こり宗之藤晋ハ儒付ガけ張旭焦遂
 長河住居いづも酒中の仙なるべし中も
 六の清ハ李白とまへる元き斗み教百遍ハへ
 梅さき南ハまらるる事あまごの太酒ハ船
 も面白かりるよよまそつと飲んると唱も
 く船のくまを終うけ時飲死しるるがふ

の人憐んと六が橋よあつらふ石碑となす
 今も千日の葉かよそ下残るるけ日の絶
 り二対半又伊丹の徳白女又石をそりて世
 いとたつて絶絶りたるごと

乃松堀見六石塔化歌并短歌

各当引帝女

色美言 柔乃乃新燈 床下ホ 年月暮 毎朝
 竹帚木持 表掃除 毎晩者 被下く其遊里年
 嘆行 登終日 過く予 遊歩行 戲場辺 系在男系

附連續之其者 白米者 何日程及 不食米 吳子不
返者不為 易之易 汝方惠成 如何思而 死出強 送之還
已形者 面黑乃滿 救吞 缺系碗乃 名亦食而 以石送
今生而 為明每事 樽乃上索 在立之 苗 脹面 且老可笑
增而已尔 哀此正 言人者 志

返歌

酒冷 能似張 面可笑 衰車々 泣上戸 須良

通考卷三 通考卷三 通考卷三 三終

